

世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2021

団体名 多摩大学梅澤佳子ホームゼミナール

○山口紗恵子、菅原侑士、小池翼、松本壤弥、岩田柚菜、齋藤純白、徳永賢人、中村優貴

①事業内容

本事業は八王子市高齢者あんしん相談センター旭町（以下、センターと省略）、八王子市民生委員・児童委員協議会第4地区民生委員（以下、民生委員と省略）・協力員、有志と学生が協働して「駅前」という特徴を活かした高齢者サロンの運営を行うものである。PJは「世代間交流」をキーワードに高齢者の健康寿命の一助となることを目的とし高齢者の方々が自然体でゆったりと過ごすことができる「みんなのゆったりサロン」を心がけている。サロンは2016年より4年間で36回運営してきたが、COVID-19の影響で2020年2月から一時休止となった。そこで2020年から新規事業として通信の発行、葉書による交流、オンラインによる高齢者サロンの仕組みづくりを2年かけて進めた。

※これまでの事業の詳細については、2016年から2020年までの「学生企画事業補助金事業報告書」をご参照いただきたい。

②実施報告

1. 「駅前サロン通信」の発行（2年目継続）

対面によるサロンの休止が続く中、高齢者の方々の状況が心配になった私たちは皆様との繋がりを保つことを目的として「駅前サロン通信」の発行を行っている。発行は2020年6月から現在も継続している。外出自粛が2年目になる今年度の表紙は、旅行気分を味わって貰いたいと世界遺産シリーズとした。高齢者の皆様から「昔、そ



の地を訪れた楽しい記憶を思い出す。」といったお言葉を多数頂き好評である。その一方、葉書を頂戴する度に「入退院を繰り返すようになった。」「怪我をした。」「サロンにはもう行けないかもしれない。」等、健康状態の悪化が伝わり心配である。このように高齢者の方々からは葉書、手紙、電話、連携団体の皆様を通じて近況や感想などを頂戴し、僅かながら皆様との交流を図ることができている。

紙面作成にあたっては、高齢者の皆様が読みやすい字体や文字サイズ、色に注意し、学生からの便りや脳トレ等の内容がマンネリ化しないよう皆で工夫した。高齢者の立場にたって興味・関心を考えるのは結構苦勞した。脳トレはゼミ内で何回もやり直した。

2. オンラインによる駅前サロンの

仕組みづくり開発・企業との連携

コロナ禍において、従来通り若者と高齢者が密に交流する対面サロンの開催は当面難しいということになり、2020年度より私たちはオンラインで大学と八王子の会場を繋ぐ「オンラインサロン」の仕組みづくりを始めた。オンラインサロンを展開するためには、高齢者が安全に手軽に利用できる仕組みが必要である。私たちは高齢者にとって使いやすい機器・方法はないかと調べ複数の企業に問合せたが、全く相手にしてもらえなかった。そこで2021年6月に大学と包括連携協定を結んでいる城南信用金庫に協力をお願いした。その結果、東日本電信電話株式会社、損害保険ジャパン株式会社と意見交換を行うことができた。また、SOMPO ケア株式会社の介護施設の見学とオンラインアクティビティの実態について

でのヒアリング調査を実施することができた。介護現場の声を聞く中で、施設に入居する高齢者は要支援1から要介護5までの何れかの認定を受けており、身体的や精神的な障害をお持ちであることから、オンラインアクティビティの実施にはその環境整備や操作性の問題解決が課題であると感じた。一方、比較的元気な方が入居しているサービス付き高齢者住宅の様な環境においては可能性が有ることが分かった。ソースネクスト株式会社には独自に交渉し、オンライン会議専用機「MeePet」を用いた実証実験にご協力いただいた。会場だけでなく、各ご家庭からも参加できるか実験した。オンラインのトラブルには、予め会場近くに待機していた学生が、求めに応じてご家庭に出向き対応した。

2020年春、オンラインの導入という私たちの提案を連携団体の方々は快く受け入れネット環境や機器を整えてくれた。秋からは連携団体と4回のリハーサルを重ね、改善しながら準備を進めた。サロンが休止状態の期間に企業との連携も進んだオンラインサロンは、2021年11月、緊急事態宣言が解除されたことから約2年ぶりに実施することができた。第37回駅前サロンである。

第37回オンラインサロンの開催にあたってはさまざまな準備と工夫を行った。大学の施設を利用してキャンパスを紹介しながら体操用の動画を撮影する、繰り返し練習、人見知りの学生が多い中、大きな動作、大きな声、滑舌のよいしゃべり方には苦労したが勉強になった。補聴器を使用している方もいるため、パワーポイントにはテロップが欠かせない。予め会場に筆記用具などを届け、参加者が絵や字で表現し、説明してもらう等、双方向で交流を図るなど様々な工夫を行った。

③ 感想・今後の展開について

新型コロナウイルス感染症により、2・3年生はゼミに所属してから、従来実施してきた対面による高齢者サロンの活動を行うことができていない。そのような中で、オンラインサロンの仕組みづくりを行っていくのは難しいことであった。対面でのサロンを実施してきた4年生と連携団体の皆様のような関係を作れていないという思いを感じることもあった。

オンラインで連携団体の皆様と新規事業の準備を進める中で、高齢者の皆様はオンラインというものに違和感を感じつつも受け入れようとして下さり、課題・意見をあげて下さった。その結果、オンラインサロンを一緒に作り上げることができたと感じている。課題がたくさんある中で、よりよいサロンを作り上げるため、これまで以上に連携団体との団結力も深まったと感じた。また、プロジェクトメンバー間、連携団体の皆様とも、報告・連絡・相談を確実に行うことで、よい話し合いができ、よい企画が仕上がることを実感することができた。

4年生は従来のサロンは開催できない中で0からのスタートで試行錯誤しながら後輩、連携団体の皆様と作り上げていくことが苦勞することでもあり学ぶことでもあった。

今後はオンラインサロンの仕組みづくりを更に進めていきたい。

謝辞

私たちの活動に多大なるご協力をいただきました八王子市高齢者あんしん相談センター旭町の皆様、八王子市民生委員・児童委員協議会第4地区民生委員・協力員、有志の皆様、大学コンソーシアム八王子、八王子市高齢者いきいき課、城南信用金庫、東日本電信電話株式会社、損害保険ジャパン株式会社、SOMPO ケア株式会社、ソースネクスト株式会社に心よりお礼申し上げます。